

国語の授業の個人追究における授業改善

～3年説明文における一人読みの指導～

滝呂小学校 酒向 教子

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・個人追究における一人読みの仕方の指導

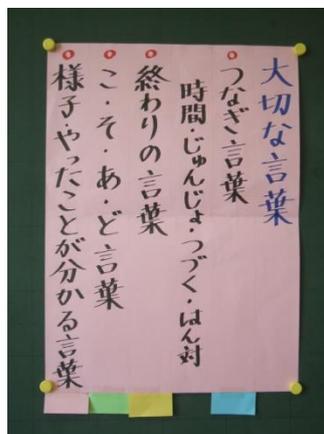
2 具体的な実践

(1) 一人読みの進め方を教えておく

説明文を読み取るための基礎・基本を教える。

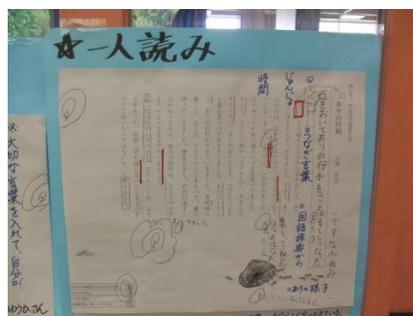
- ・「はじめに」「しばらくすると」「やがて」などの接続語に着目すると、何がどうなったのかを読み取りやすい。
- ・「～なのです。」「ちがいません。」「～と考えました。」など、文末表現に着目すると、作者の思ったこと考えたことがよく分かり、大切な所を読み取りやすい。
- ・「このえき」「そのにおい」などの指示語が何を指しているのかを考えながら読むと、内容が分かりやすい。

- ・「道すじ」「えき」「地面につけながら」など繰り返し出てくる言葉は、段落の中で中心となる大事な言葉や文になるので逃さないように読み取る。



(2) 一人読みの上手な仕方を掲示する

大事だと思う言葉に線を引き、自分に分かりやすい表現に変えたり、意味が分からない言葉を辞書で調べたり、挿絵と結び付けて説明したりすることができている児童のプリントを掲示する。



(3) 前場面までの内容を掲示する

一人読みの大事な言葉を探すヒントになるように、前場面までの内容を教室のよく見える場所に掲示する。



(4) 実態を把握し、声かけをする

毎時間、学習プリントを集め、一人読みの内容や感想を机列表に記入する。それをもとに、個人追究の時、「これは、どういうことを言っているの?」「どうしてこうなったのかなあ?」など、声かけをする。

3 実践を振り返って考えられること

7月の全校研究会で、3年生の「ありの行列」の授業を参観した。一人読みの仕方がよく指導されていて、接続語、文末表現、指示語、繰り返し出てくる言葉などに線を引き、どの子もプリントの行間や挿絵の近くにたくさん書き込んでいた。机の上には、国語辞典が準備してあり、振り返りの掲示もあり、学習環境が整っていた。そのため、全体交流で、意見が活発に出て、読みが深まった。